

## 1 6 年度予算編成の基本姿勢について

わが国経済は、大幅な財政赤字がつづき、政府は巨額の債務超過を抱えています。近年の財政構造改革への取り組みを反映して、歳出規模は抑制されているものの、国・地方とも財政赤字が拡大し債務残高は約700兆円に達しています。現在の制度・政策をつづければ、今後、債務が一層拡大して財政破綻におちいるのが目に見えてきています。ところが政府は、プライマリーバランスを黒字にするとの方針を出していますが大変厳しい状況にあるのではないかと考えます。

そこで菰野町でも経済悪化の影響から町税収入が落ち込みを見せてきています。現在は固定資産税収入が大きなウエイトを占めており、若干の伸びはありますが今後は余り期待出来ないのではと考えます。菰野町が単独自治体として住民にとって満足できるまちづくりを進めていくためには財源の確保と健全財政を確保する事が大変重要になってきます。菰野町として財政健全化に向けてどのように取り組んでいくのか、町税・地方交付税・など一般財源に限らず歳入を厳しく見積もりその確保に全力を傾ける必要がありますが考え方をお聞かせください。

次に町民への説明責任を果たし透明性の高い予算編成をする必要があると思います。16年度予算編成に先立ち実施した事業の政策評価や事務事業の見直し及び補助金の見直しなど成果を予算編成に反映させる必要があります。どのように対応するのかお伺いいたします。

また三位一体の改革論議の行方によっては地方財源の枠組みも大きく影響を受けることが予想されます。このような大きな変動要因を抱えている中、中・長期政策プランの再検討が必要ではないのか、また、中・長期財政見通しはどのように考えているのかお伺いいたします。活力ある菰野町実現に向けて財政の健全性の維持にどう取り組んでいくのか見解をお伺いいたします。

財政を担当する財務課は予算の編成をするだけでなく「PLAN(編成)・DO(執行)・SEE(評価・検証)」のプロセスの内、特にSEEの充実をはかりSEEからPLANへの

フィードバック（事後評価の予算への反映、すなわちチェック・アクション）今後更に充実させる必要があります。その為には実行性のある事後評価が必要でありますがお考えをお伺いいたします。

## ゴミ減量の対応とゴミ焼却場について

三重県企業庁RDF焼却・発電所のRDF燃料貯蔵施設において、平成15年8月14日に当該施設で発生をした火災について消火活動中の消防士2名が、死亡し、また負傷者がでたのは記憶に新しい所であり、なくなられた消防士の方々にはご冥福をお祈りいたします。

こんにちゴミ問題を根本的に解決する為には、大量生産・大量消費・大量廃棄といった一方通行型の生活様式から、資源循環型の生活生産様式に転換を図っていくことが課題であると考えます。その為には、町民一人ひとりがゴミを減らす、ものを繰り返し使う、分別により資源化を進めるなど、みずからのライフスタイルを改めると言った意識改革が重要であると考えます。子供たちには教育の現場で、細かく指導をしていかなければいけないのではと考えます。またゴミの問題は生活に密着した家庭教育についても十分指導しなければいけないのではと考えます。菰野町は今後ゴミの減量化対策はどのように進めるのかお伺いいたします。

また次に菰野町のごみ焼却場についてであります。菰野町のゴミ焼却場は平成元年6月着工以来15年が経過をしてきています。その間ダイオキシン対策やさまざまな補修工事をしてきていますが老朽化はさけて通ることはできません。

今後焼却場をこのまま補修工事だけではいつまで持つのか大変不安であります。

以前三重県では、ブロックにわけて焼却施設を考えていたと聞きますがいつのまにか各市町で取り組みをしている様であります。四日市市でも新施設計画がありましたが、ダイオキシン対策をした事で従来の施設を使用してはいますが、この施設も老朽化が進んでいる様であります。今後菰野町では、新しい施設の準備をする必要があるのではと考えます。単独の施設を考えるのか、広域施設を考えるのか菰野町の考えをお聞かせください。